証券コード 6405

SUZUMO REPORT

第 62 期
2021年4月1日～2022年3月31日

Index

トップメッセージ …… P.01
第 62 期総括と次期の展望

特集 …… P.02
ガバナンスの取り組み・株主還元方針

TOPICS …… P.04

財務ハイライト …… P.07

WE LOVE RICE SUZUMO

トップメッセージ

第62期総括と次期の展望

代表取締役社長　鈴木 美奈子

売上、利益ともに過去最高を更新
新たな株主還元方針を設定

第62期を振り返って

株主の皆様には、日頃より格別なご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

第62期は、売上高115億6,500万円、営業利益15億1,700万円、当期純利益10億7,000万円と、いずれも過去最高を更新しました。コロナ禍の中で、外食や小売業において、省人省力化やテイクアウト需要が拡大し、国内、海外ともに前期を大きく上回る実績となりました、特に、海外は、北米・欧州において、コロナ禍の中で人の労働力を機械へ置き換える動きが加速し、前期比で売上が2倍以上に拡大しました。

一方で、世界的な半導体や部材の供給不足により、第2四半期より生産活動は制限された状況が続いています。国内外において、ますます高まる寿司ロボットやご飯盛付けロボットの需要に応えるために、部材調達先の開拓や設計変更等を含め、対応してまいります。

また、財務状況や今後の事業展開等を考慮し、第62期の配当金を前期より20円増額し、40円とさせていただきました。

第63期の取り組み

第63期は、世界的な半導体や部材の供給不足により、生産活動の制約された状況を考慮した上で、売上高130億円、営業利益18億円、当期純利益13億1,500万円と業績の成長を計画しています。コロナ禍の先の変化を見据え、さらなる成長を確実なものにしていくために、事業基盤の強化を積極的に行っていきます。単なる機械の販売ではなく、キッチンからホールまで、お客様の抱える課題に幅広く対応できるソリューション体制の構築を進めてまいります。

また、株主還元のさらなる充実を図るために、次期より株主還元方針を「総還元性向30%以上」「中間配当の実施」と変更し、第2四半期末の配当を30円、期末の配当を32円の合計62円の配当を予定しております。

株主の皆様には、引き続き変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

特集

ガバナンスの取り組み

経営の監督と執行を明確に分け
長期的な事業成長を目指す

コーポレートガバナンスの整備・強化の一環として昨年から導入した「執行役員制度」は、これまでの体制を大きく変える取り組みの一つと言えます。

従前の取締役体制では経営監督と執行が深く絡んでくると執行の部分が見えなくなってしまうことが少なからずあったので、これを完全に分離。経営監督に関する部分は、社外取締役3名と常勤取締役2名体制にスリム化。経営方針の決定と経営の監督に専念することで、経営環境の変化に迅速かつフレキシブルに対応できる体制としました。一方、執行の部分は私を含めた執行役員7名が担い、業務執行の責任を明確化して正しい状況把握ができるようにいたしました。

また「執行役員制度」を導入するにあたり、会社の経営執行ならびに業績に対するコミットメントをきちんとしていくと言う観点から、「役員に対する譲渡制限付株式報酬制度」の導入を同時に発表。執行役員へのインセンティブ報酬として、新しい経営体制がスタートしたところで株式の付与を速やかに行なっています。本制度は、株主目線を意識した思考および行動を役員に促す意味もあり、会社の持続的な成長と業績向上を目指し、経営の執行の部分で短期的なところのみならず、中長期的なビジョンを考えた上で各自が執行責任を果たしていこうというものです。

取締役
専務執行役員
谷口 徹

「指名・報酬委員会」の設置で
企業の透明性を保ちガバナンス体制を充実

昨年12月、取締役会の諮問機関として任意の「指名・報酬委員会」を新たにスタートさせました。当社の取締役および執行を担う執行役員について、選定・指名は適しているか、見合う報酬であるか、などの審議・評価を行うものです。指名・報酬にかかる決定プロセスと客観性を担保することで、取締役会の監督機能を高めるのが目的であります。メンバーは、独立社外取締役2名と代表取締役社長の鈴木の3名で構成。この委員会の仕組みは外部から見ても透明性ある立て付けとなっており、上場企業に求められているコーポレートガバナンス・コードへの対応を踏まえる上でも欠かせないものと言えます。

当社はこれからも適切なガバナンス体制の充実と強化をはかり、上場企業としてのあるべき姿に近づいていくよう、より積極的な取り組みを進めてまいりたいと考えています。

特集

株主還元方針

取締役 専務執行役員
谷口 徹

株主の皆様への利益還元充実へ向け株主還元方針を変更

当社は、株主の皆様への利益還元を重要な経営課題の一つとして位置付けており、継続的かつ安定的な配当を実施してきました。この度、株主還元のさらなる充実をはかるために株主還元方針を変更する運びとなりました。総還元性向は30%以上、配当回数も中間配当を含めた年2回とします。適用は2023年3月期中間・期末配当とさせていただきます。

そもそも当社の意識としては、株主や当社の株式の売買に参加する投資家を増やしていくことが、大きな意味では株主還元になるという考え方を持っております。株主還元とは、キャピタルゲイン（売買差益）とインカムゲイン（配当金、株主優待）をきちんと提供することである、と言う考えです。当社はまだまだ成長できるという自負があり、そう言う意味ではキャピタルゲインをきちんと形成していくことが大きなポイントであると思っています。その中でも重要なのは、より多くの方に当社の株主になっていただく必要があると言うことです。しかしながら当社の企業としての認知度が低いのが課題であり、それを解消していくためには投資家が投資に資すると判断してくれるような企業価値を高める情報発信に注力しなければならないと考えています。個人投資家の皆様のみならず機関投資家の方々の参加が増えてくればそれだけ取引も活発化し、当社の株式の売買がしやすい環境も整うのではないかと思います。当社はキャピタルゲインを追求して成長を目指す一方、インカムゲインの方針も明確に打ち出し、当社の株式の売買の参加者を増やすことに尽力してまいります。

投資の参加者を増やすためのコーポレートアクション

株主の皆様からは「もっと適正な株価対策をして欲しい」というお声を多くいただきます。当社といたしましても、徐々にではありますが投資の参加者を増やすための取り組みを行なっています。昨年度、決算説明会をオンラインで参加できるようにしたのもその一つです。また、説明会の内容をスクリプトのような形で開示し、後からでも決算説明会で何が話し合われたかなどを見ることができるようにしました。海外への対応も進めており、英語表記の資料も作成。また個人投資家が参加できる機会拡大への取り組みも検討しており、さまざまなアクションを実施する施策を構築中です。これからはIR活動を積極的に展開して、株主の皆様との対話機会も増やしていくつもりであります。今後のSUZUMOにご期待ください。

Topics ❶

国内事業

執行役員 営業本部長
中村 健司

コロナ禍の中、今期の売上は堅調に推移 さらなる需要の拡大へ対応を進める

国内事業において全般的には概ね計画通りに業績達成できたのですが、半導体不足で部品が思うように調達できず、生産が追い付かずに、お客様の需要に十分にお応えすることができませんでした。

当社の主力販売先であるスーパーマーケットは内食、中食需要が堅調に推移しており、寿司の販売も好調と伺っております。回転寿司も郊外のみならず都心への出店を加速しており、アフターコロナを見据えた店舗展開をしっかりされている印象を受けました。

また、米飯ファストフードである牛丼業態も郊外型の店舗ではファミリー層のテイクアウト需要が増加しております。

今後、人手不足や原材料の高騰など厳しい環境の中、機器の開発や様々な提案でお客様のお役に立てる様、邁進してまいります。

「Fuwarica」の導入が好調 人流活発化に向けた対応も念頭に

ご飯盛付けロボット「Fuwarica」は米飯ファストフード系の店舗で堅調に売上を伸ばす一方、日本全国にチェーン展開しているビジネスホテルでの採用が進んでいます。コロナ禍の中で、衛生や省人化対応への設備投資のため、当社の「Fuwarica」を導入し朝食会場に設置したところ、しゃもじ不要で衛生的な上、おいしいご飯がワンタッチで盛り付けられるとあって、宿泊客にもたいへん好評だという声をいただきました。また、ゴルフ場のクラブハウスレストランでも順次採用され、「Fuwarica」は、食の安心、安全を支える強い味方として食のシーンに定着していくものと考えられます。

今後の国内の販売展開としましては、まず、お寿司のテイクアウト需要に対応した製品の強化です。当社では持ち帰り需要に特化した専用機を販売しておりますが、既にスーパーや回転寿司からの引き合いも多数あり、高い評価をいただいております。また昨年グループ化しました、セルフレジ、タッチパネルなどを販売しております日本システムプロジェクトとの販売シナジーも今後大きく期待できます。近い将来インバウンド需要も戻ると思われ、ホテル、レストラン、社員食堂、コンビニエンスストアのベンダーなど、今後上向きになってくる業界への提案活動や顧客開拓をしっかり進めていきたいと思います。

Topics ❷

海外事業

執行役員 海外事業本部長 **村瀬 康宏**

中東市場へ本格進出 おいしい日本食を届けたい

北米、欧州、アジアに続く、第4の市場創造のため、2018年にアラブ首長国連邦のドバイに拠点を構えるMizuho Gulf Capital Partners Ltdと資本業務提携を結び、さらに翌2019年には現地の大型スーパーマーケットで事業展開しているBluefin Trading LLCの株式を35%取得。現状では中東市場への日本企業の外食参入は極めて少ないものの、お寿司を始めとした日本的な米飯食の拡大はこれからの市場であり、中東での日本的な米飯市場創造は、大変やりがいがあると考えています。

事業が本格稼働する矢先にコロナ禍の影響を受け、一、二年はもどかしい状況だったというのが正直なところです。しかしここは戦略準備期間として捉え、Bluefinを含む現地事業者への日本米やレシピの紹介など、中東市場での基盤作りに取り組めたと思っています。アジア・欧米等で販売実績を積んでいる当社は、世界中どこでもおいしいものを提供すれば結果はついてくることを実感しています。中東でも押し付けではない形で日本食文化を訴求すれば、必ず現地の皆様に受け入れられると信じております。

Bluefin Trading LLC Director **立木 成**

UAEのドバイに 正統派の日本食レストラン 「MOMIJI」グランドオープン

2022年2月、ドバイで本格的な日本食レストラン「MOMIJI」が営業を開始しました。中東における日本食はフュージョンジャパニーズ。銀鱈の西京焼をラーメンに乗せたものもあります。「MOMIJI」のコンセプトは、Japanese Authentic Cuisine。正統の日本食を現地の方々に伝え、おいしさを知ってもらいたいという思いが込められています。開放的な店内で提供される日本食は評判も上々で、メニュー開発やスタッフ教育にも力が入るところであります。

ドバイにある「MOMIJI」店内

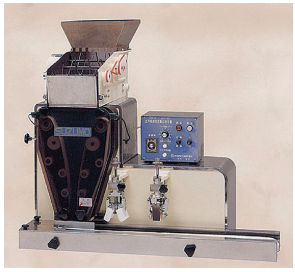
また、ドバイはもともとデリバリーが盛んでしたが、コロナ禍で需要が加速。私どもも実体店舗を持つ強みを生かし、「MOMIJI」ブランドでの業界参入を視野にさらなる事業拡大につなげたいと思っています。

NEWS

Pick Up!

SUZUMOの寿司ロボット1号機 江戸前寿司自動にぎり機 ST-77「機械遺産」に認定

「機械遺産」は、歴史に残る機械技術関連遺産を大切に保存し、次世代に伝えることを目的に日本機械学会が創設。創業者鈴木喜作考案の技術はまさに機械による巧みの技で日本の寿司文化に大きな影響を与え、国内外に回転寿司の発展と寿司の大衆化を広めた原動力となったとして、2021年度機械遺産に認定されました。



Topics ❸

国内新規事業

外食をセルフ化で元気にする SUZUMOとの融合でさらなる進化を目指す

㈱日本システムプロジェクト　専務取締役
毛受 義明

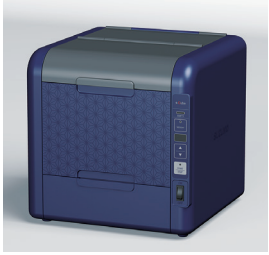
当社は30年の実績と蓄積されたノウハウを活かし、飲食店をシステムでサポートしてきました。今後、飲食店の人手不足はますます深刻化し、より一層の省力化、非接触化のニーズが高まると思われます。「セルフオーダー」「セルフレジ」といった従来のJSPパッケージシステムに対して回転寿司・焼肉業態に特化した機能開発を強化してまいります。具体的には、日々の食材仕入れに対応したマスターメンテナンス性の向上、ユーザーインターフェイス等の改善、SUZUMOの寿司ロボットとの連動などで他社システムとの差別化を図ります。また、回転寿司でニーズの高い「受付配席システム」「店舗分析BI」を新製品としてリリース予定です。SUZUMOとJSPの融合によるシナジー効果はクライアントからも大きな期待が寄せられており、既存のお客様へのパッケージ販売にとどまらず、ソリューション提案をできるSIパートナーとしての役割が求められてきます。IoTやAI、画像認識などの技術をもつ協力企業とのアライアンスを進めながら、新規の商品開発をさらに進めてまいります。

ネット環境に左右されないセルフオーダー端末とスタッフ用モバイル端末

通路幅50cm走行を実現した新世代配膳ロボット

新製品情報

コンパクトシャリ玉ロボット「S-Cube」誕生



その名の通りキューブ型のコンパクト設計で、ネイビーのボディーの正面には、日本古来から伝わる麻の葉模様をデザイン。「スモール・スマート・シンプル」がコンセプトで、従来の製品同様ふんわりとしたシャリの供給で、世界中どこでもおいしいお寿司を提供できます。

SDGs の取り組み

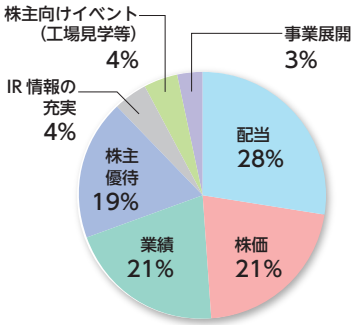
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

デモ実演に用いたご飯をアップサイクル

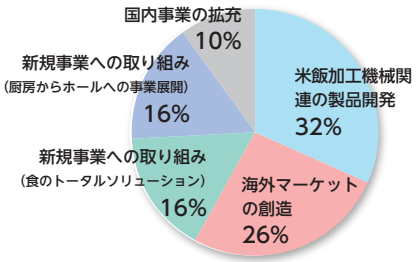
持続可能な『循環型社会』を目指すファーメンステーション社と連携し、実演等に用いたご飯を廃棄せずに利用する取り組みを進めています。白米を発酵・蒸留してエタノールを生成し、飼料や除菌ティッシュに再生。今後は、酢飯の再生にも力を注いでまいります。

アンケートのご報告

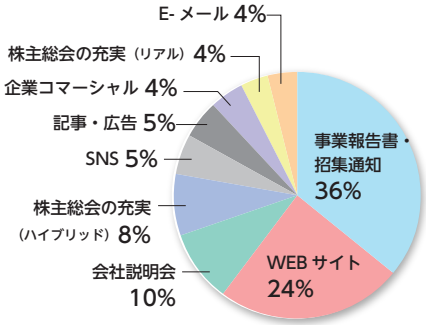
前回発行しましたSUZUMO REPORT(第62期中間)でご協力のお願いをいたしました結果、
多くの株主の皆様にご回答をいただきました。誠にありがとうございました。
皆様の声を今後の経営に役立てるべく活用させていただきます。
以下にご回答の内容を一部抜粋にてご報告申し上げます。



今後期待するもの
（複数回答）



事業や取り組みへの関心事項
（複数回答）



情報提供手段として望ましいもの
＊特になし 1 回答を除く

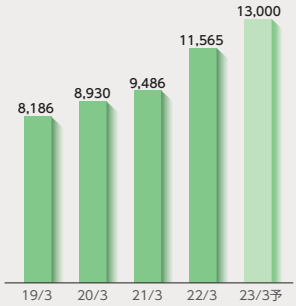
Financial highlights

財務ハイライト

売上高（単位：百万円）

11,565 百万円

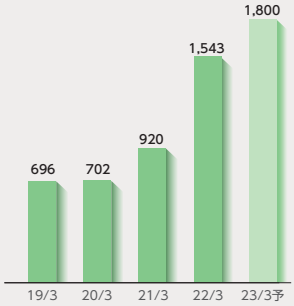
前期比 21.9%増



経常利益（単位：百万円）

1,543 百万円

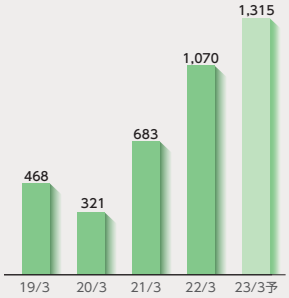
前期比 67.7%増



親会社株主に帰属する当期純利益（単位：百万円）

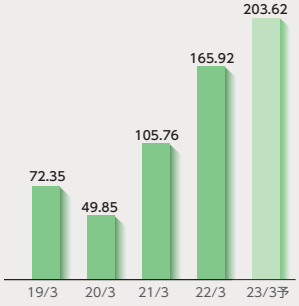
1,070 百万円

前期比 56.6%増



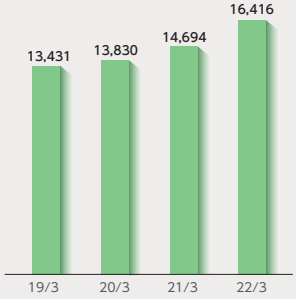
一株あたりの当期純利益（単位：円）

165.92 円



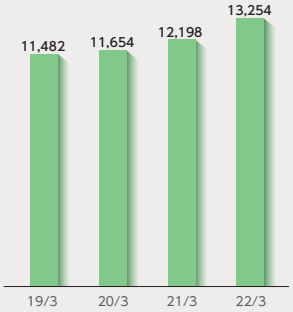
総資産（単位：百万円）

16,416 百万円

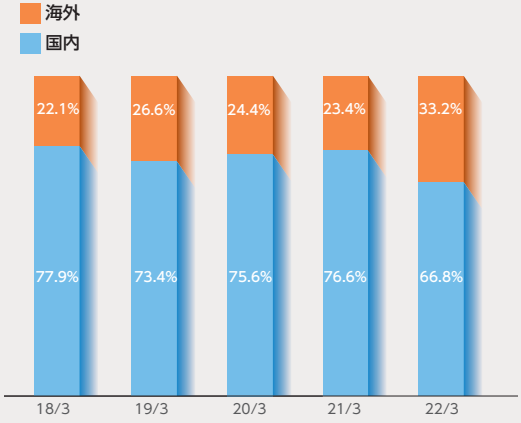


純資産（単位：百万円）

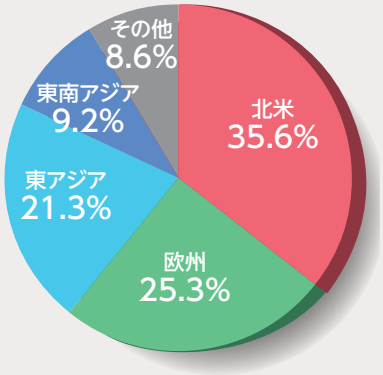
13,254 百万円



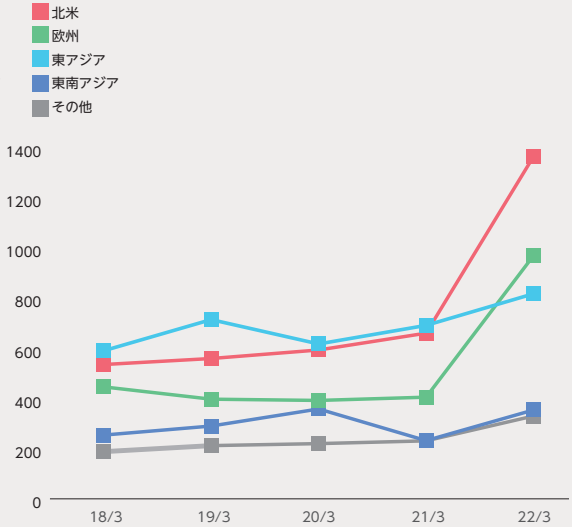
国内外の売上比率



海外の地域別売上高の割合



海外の地域別売上高の推移 (単位:百万円)



Overview of the consolidated financials statements

連結財務諸表（要約）

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当期 2022.3.31現在	前期 2021.3.31現在
資産の部		
流動資産	12,085	10,568
現金及び預金	8,276	7,342
受取手形及び売掛金	1,287	1,321
電子記録債権	172	16
たな卸資産	2,199	1,801
その他	150	85
固定資産	4,330	4,125
資産合計	16,416	14,694
負債の部		
流動負債	1,775	1,382
固定負債	1,386	1,114
負債合計	3,161	2,496
純資産の部		
株主資本	13,205	12,246
その他の包括利益累計額	30	△62
非支配株主持分	17	14
純資産合計	13,254	12,198
負債純資産合計	16,416	14,694

連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	当期 2021.4.1～2022.3.31	前期 2020.4.1～2021.3.31
売上高	11,565	9,486
営業利益	1,517	919
経常利益	1,543	920
親会社株主に帰属する当期純利益	1,070	683

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	当期 2021.4.1～2022.3.31	前期 2020.4.1～2021.3.31
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,340	1,245
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 268	△ 344
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 194	△ 184
現金及び現金同等物に係る換算差額	55	△ 21
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	933	695
現金及び現金同等物の期首残高	7,342	6,603
非連結子会社との合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	43
現金及び現金同等物の期末残高	8,276	7,342

会社概要 （2022年3月31日現在）

商　　号	鈴茂器工株式会社 （英文名：Suzumo Machinery Co., Ltd.）
設　　立	1961年1月13日
本　　社	東京都練馬区豊玉北2-23-2（〒176-0012） TEL.03-3993-1371(代)
資 本 金	11億54,418千円
事業内容	寿司ロボット、盛付けロボット等の米飯加工機械の製造・販売など
従業員数	432名（2022年3月末現在）
U R L	https://www.suzumo.co.jp/

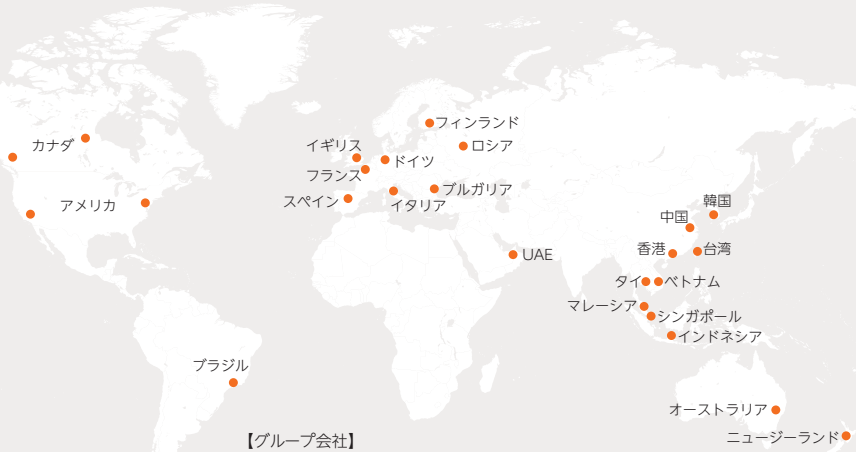
国内拠点

【グループ会社】
(株)日本システムプロジェクト
(株)セハージャパン

取締役および監査役（2022年6月25日現在）

地　位	氏　名	担当および重要な兼職の状況
代表取締役社長	鈴木　美奈子	
取締役専務執行役員	谷　口　　徹	
社外取締役	髙橋　正己	株式会社ロイヤルメディカルクラブ　代表取締役社長
社外取締役	髙橋　昭夫	バイオマス・フューエル株式会社　社外取締役／株式会社MTG　社外取締役
社外取締役	橋　本　　泰	株式会社YU-WA Creation Holdings 社外取締役／合同会社ブリッジパートナーズ代表社員
常勤監査役	河　野　　淳	
社外監査役	村井　淳也	村井法律会計事務所 弁護士、公認会計士
社外監査役	中島　敬方	

海外ネットワーク



【グループ会社】
(米国子会社)SUZUMO INTERNATIONAL CORPORATION
(シンガポール合弁子会社)SUZUMO SINGAPORE CORPORATION PTE. LTD.
(UAE持分法適用会社)Bluefin Trading LLC

株式の状況

（2022年3月31日現在）

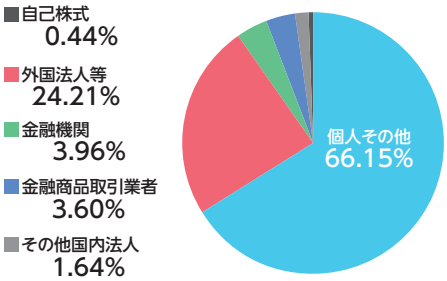
発行可能株式総数 ……16,000,000株
発行済株式総数 …… 6,480,000株
株主数 …… 2,422名
1単元の株式数 …… 100株

大株主

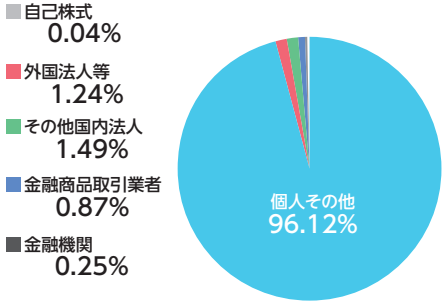
株主名	持株数	持株比率
鈴木　節子	1,300,240	20.15%
GULF JAPAN 1	898,500	13.93%
鈴木　美奈子	813,000	12.60%
鈴木　映子	813,000	12.60%
NORTHERN TRUST CO.(AVFC) RE HCR00	423,600	6.57%
鈴茂器工取引先持株会	293,940	4.56%
立花証券株式会社	120,700	1.87%
BNYM RE BNYMLB RE GPP CLIENT MONEY AND ASSETS AC	98,500	1.53%
岩本　庄司	98,000	1.52%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	93,100	1.44%

（注 1）持株比率は小数点以下第 3 位を四捨五入しております。
（注 2）持株比率は、自己株式（28,450 株）を控除して計算しております。

所有者別株式数



所有者別株主分布状況



株主メモ

事業年度	4 月 1 日から翌年 3 月 31 日まで
基準日	3 月 31 日
定時株主総会	毎年 6 月
株主名簿管理人特別口座　口座管理機関	三菱 UFJ 信託銀行株式会社
同連絡先	三菱 UFJ 信託銀行株式会社　証券代行部 東京都府中市日鋼町 1-1 TEL　0120-232-711 郵送先 〒 137-8081 新東京郵便局私書箱第 29 号 三菱 UFJ 信託銀行株式会社　証券代行部
上場市場	東京証券取引所（スタンダード市場）
公告方法	電子公告（https://www.suzumo.co.jp/ir/） （ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。）

●お知らせ
1. 各種お手続きに関するご注意
(1)株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
(2)配当金の口座振込のご指定につきましても、お手続きは「配当金振込指定書」を各口座管理機関を経由してお届けいただくこととなっております。振込指定のお手続きにつきましては、詳しくは各口座管理機関にお問合せください。
(3)特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
(4)未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

2. 期末配当金計算書について
配当金の口座振込をご指定の方と同様に、「期末配当金受領証」により配当金をお受取りになられる株主様宛にも「期末配当金計算書」を同封いたしております。配当金をお受取りになった後の配当金額のご確認の資料としてご利用いただけます。

WE LOVE RICE SUZUMO 鈴茂器工株式会社
東京都練馬区豊玉北2-23-2（〒176-0012）　TEL：03-3993-1371(代)
URL：https://www.suzumo.co.jp/